

会報 青森県在宅保健師の会

平成29年12月発行・第25号

平成29年度在宅・現職保健師保健所ブロック別研修会・交流会 ～テーマ：糖尿病重症化予防について～

今年度も、本会、市町村保健師活動協議会、国保連合会の三者の共催で、10～11月に6圏域毎に標記研修会・交流会を開催しましたので、その状況を報告します。

テーマは昨年度に引き続き「糖尿病重症化予防について」とし、県の高齢福祉保険課とがん・生活習慣病対策課の行政説明の後、市町村の取り組みについて発表していただき、在宅・現職保健師で意見交換し交流しました。

研修会終了後のアンケートでは多くの参加者が「参考になった、今後の業務や活動に活かせる」と回答しており、今後の活動への期待が膨らみました。現職保健師からの感想の一部をお知らせします。

- ・行政説明は資料だけではわかりにくいと感じていたので、今日は参加して良かったです。
- ・先輩方と一緒に研修に参加して、新人の頃の業務研究会を思い出しました。1つの事業について、共有できとても勉強になりました。
- ・国保事業について詳しく知る機会があまりないので、とても参考になりました。国保の保健事業について、このような場で話し合えれば良いと思います。
- ・タイムリーな問答でした。管内全市町村が参加できれば良かったです。
- ・他の市町村の状況を知ることができて参考になりました。在宅保健師の先輩がとてもいきいきと活動されている様子を拝見させていただき、自分の十年先の見本にしたいと思います。
- ・在宅保健師の活動状況を聞けて良かったです。
- ・まさに業務に必要なことでしたので、大変有意義でした。今後もニーズに即した研修をお願いします。



<開催状況>

時間 11：30～13：30 在宅保健師のみの交流会
13：30～15：45 現職保健師と一緒に研修会

研 修 内 容	ブ ロ ッ ク	参 加 者 内 訳 (人)		
		会 員	現 職	計
1 行政説明「糖尿病重症化予防関連事業について」 県高齢福祉保険課職員 がん・生活習慣病対策課職員	む つ	5	15	20
	五 所 川 原	9	10	19
	弘 前	7	23	30
2 活動発表「各市町村の取組」 風間浦村：能 渡 和 枝 つがる市：米 谷 真紀子 藤 崎 町：田 中 麻里子 野辺地町：山 下 知恵理 青 森 市：中 山 満美子 南 部 町：藤 嶋 聡 子	上 十 三	14	25	39
	東 青 地 域	13	19	32
	三 八 地 域	10	9	19
	合 計	58	101	159
3 意見交換・まとめ				

保健所ブロック別研修会・交流会開催状況

むつ保健所ブロック (10月23日・むつ市役所)

報告者: 廣谷 のり(風間浦村)

当日は大型の台風21号の影響で、濡れ落ち葉が敷きつめられた路面もあり、スリッパを気にしながらの運転で会場に向いました。

今回は研修会に先立ち、会員だけの交流会から始まりしました。参加した5人からは趣味やボランティア活動・自身や家族の健康管理等近況を報告し合い話題が尽きない程でした。

午後の研修会には現職保健師13名が出席。糖尿病重症化予防

対策関連事業の行政説明と風間浦村から活動発表がありました。行政説明では、本県の糖尿病死亡率が全国ワースト1位で続いている中、この事業を実施する市町村・県・医療機関の役割や、実施する上で財政支援を獲得するための交付基準等の説明や意見交換がありました。昨年度、糖尿病治療中断者受診勧奨事業を実施したむつ市からは貴重な意見を聞くことができました。現役の頃、糖尿病教室を市町村や保健所で実施したこと、重症化したケースへ家庭訪問したこと、業務研究会で管内保健師が糖尿病予防について勉強し合ったこと等が思い出されました。

今回の研修に参加して本県の現状や課題・事業実施の方向



を知る機会になりました。そして日常の健康づくりの実践や適正な医療機関の活用等セルフケアの大切さを再確認させられ、糖尿病予防を意識した生活習慣の継続した実践の有無が、少なくとも自分らしい生活を送れるベースになることだとも思いました。研修会や交流会で会員や現職保健師にお会いし、頑張っている姿を目の当たりにすることは私自身、励みになり気持ちも若返るような気がします。昨年と今年は、むつ市役所の会議室での開催でしたが、仕事のニオイがする場所は懐かしい気分になります。事務局の方々には毎回大変お世話になり有難うございます。これからもよろしくお願いします。楽しい一日でした。

五所川原保健所ブロック (10月26日・五所川原市民学習情報センター) 報告者: 後藤 厚子(鱒ヶ沢町)

当日は秋晴れのとても良い天気。

私は久々に参加することができました。在宅保健師の皆様は早目に集合、おいしいランチ&情報交換でお口の動きがなめらか!! 諸先輩の充実した人生を伺うことができて楽しい時間でした。

午後の「糖尿病重症化予防対策関連事業について」は、行

政説明をしっかりと聞くことができ、とても勉強になりました。また、市町村の取組状況についてもこの場に参加することで詳細を知ることができました。

私の所属している協会けんぽにおいても、重症化予防には力を入れて訪問・受診勧奨しておりますが、人によっては受診確認まで数度の電話等、数ヶ月かかる方もあります。本事業について、青森県医師会、糖尿病対策推進会議、県の連携をより密にし市町村、事業所等が推進できることを願っています。

また、国保連合会、県の担当者の方々が地域に出向いて、このような研修を計画されていることは素晴らしいと思いますので、多くの皆様に参加していただきたいと思います。



弘前保健所ブロック (10月30日・弘前市保健センター)報告者: **成田 むつ子**(弘前市)

会場に入るや“久しぶり”の声と笑顔が飛び交い、早速参加した7名の在宅保健師と国保連合会2名の専門員による交流会を開催。それぞれの近況報告に流石保健指導の達人！無駄に歳を重ねていないと実感！公的機関等の業務に少しだけ従事して社会性を保ち、ジム通い、卓球、登山等で身体機能を維持、習字や絵、裁縫等で知的機能を保ち、ウィッグで若返り、膝は痛いけどまだ気持ちは若い、やり残しが一杯とどこまでも前向きでした。



後半は、新任から超ベテランまで28名の保健師が参加しブロック別研修会を開催、糖尿病重症化予防対策関連事業について、県の担当者からの説明、その後管内市町村から取組状況の報告があり、糖尿病の課題に向き合う施策と評価、今後の方向を知る機会となりました。管内は比較的医療との連

携がスムーズとのことでしたが良好な関係づくりと、糖尿病手帳をツールとした個別支援ネットワークで情報の共有化が図られ効果的な保健指導が展開されたなら重症化予防に繋がるのではと、薄い胸に感じた時間でした。

上十三保健所ブロック (11月1日・十和田市保健センター)報告者: **下田 和子**(六戸町)

11時30分からお昼を挟んでの交流会、お弁当も美味しかったが、参加者の近況が楽しかった。学生時代指導してくれた古川さん、元気ですね。私が指導した長瀬保健師（在宅保健師1年生）、年齢層が厚くて年の差を感じません。司会者の新井山保健師、五戸町で地域デビューして地域が活性化したそうですよ。疇さんから「最近、終活を考えるようになったのよ」との話題が出たとたんに「我も、我も」と大賑わい。大きな口を開けて「わっはは、わっはは…」大笑い。「年齢的な話だね」とさ。保健師として何らかの関わりを持ちながら、生き生きキラキラ輝いて暮らしている在宅保健師

の皆さんから活力を頂きました。話をうんうんと聞いている澤谷さんの笑顔がとても幸せそうでしたよ。

午後からは、現職保健師も入ったの合同研修会でした。県から「糖尿病重症化予防対策関連事業について」説明があり、また、野辺地町から「糖尿病STOP大作戦について」活動発表がありました。

沢山の資料から、慢性疾患の取り組み方、医療機関の協力体制の充実など、「現状を理解し日々の保健師業務を続けましょう」と確認しあいました。楽しい研修ありがとう。



東青地域保健所ブロック (11月8日・青森市元気プラザ)

報告者：奥瀬 郁子(青森市)

今回が初の当研修会参加となりました。

研修会前は昼食をとりながら在宅保健師のみの交流会でしたが、国保連の事務局2名を除いては13名中私が退職後6年目ということで、一番の若者でした。最高年齢者は80代の方でしたが、若く澁澁とした近況を聞くにつれ、とても真似はできないと感心させられました。

研修会のテーマは「糖尿病重症化予防対策と関連事業について」でしたが、最初に県健康福祉部の行政説明があり、次いで青森市のこれに対する取り組み等について発表と討論がされました。青森市は糖尿病起因の腎不全死亡が男性が全国平均の2倍、女性は約1.5倍という圧倒的な多さを聞きびっくりさせられました。また、相変わらずの喫煙・飲酒率の高さです。

糖尿病といえば、もはや「個人の生活を見直せ」だけでは、あまりにもストレスフルな現状のサラリーマンには酷な



言い方かもしれません。残業が当たり前になっていて、外食や中食では甘辛く味付けされ、果物は糖度アップに競争し、おやつと称されるものはスイーツともてはやされ、「何をどう食べればいいのか!」と一応糖尿病の疾病を理解しているつもりでさえ叫びたくなるような状況です。

この辺で会社ぐるみ(国ぐるみ)で健康づくりの重要性に気づいてもらわないと、がん・糖尿病・認知症の一連の根っこは断ち切れず、気づけば医療費の膨大さに嘆くばかりでしょう。

三八地域保健所ブロック (11月17日・ジョイワーク三戸)

報告者：古川 百合世(八戸市)

ちらちらと雪の舞う寒い日、久々に研修に参加しました。会場に入ると「こんにちは」「久しぶり」と、すでに在宅保健師の交流会が始まっている雰囲気でした。参加者は10名で昼食を取りながら各自の近況報告があり、現在、デイサービスや包括支援センターなどに就労中の人、大病を患い克服してきた事、家族の介護を通じて考えさせられる事、特技や趣

味を通じて公民館等で発表した事、何しろ元気で、生き生きと前向きに進んでいる60歳代から89歳の在宅保健師の姿勢に、パワーを全身にあびた感じでした。

午後は「糖尿病重症化予防関連事業について」行政説明として、県の高齢福祉保険課とがん・生活習慣病対策課の方より、青森県の現状や対策、関連事業の説明がありました。活

動発表では、南部町の現状と今後の取り組み等、具体的な強化事業としての内容を知ることができました。「糖尿病の現状と対策」について学ぶことの多い研修でした。



先輩諸姉と 語る

10

吉田 美代さん
(青森市)

今回は、本会の発足にご尽力され、5月開催の会設立20年記念パーティにおいて感謝状を受領された吉田美代さん取材しました。編集委員の千葉綾子監事（青森市）からの報告です。

看護の道へのスタート

「母が助産師だったので、私も命に携わる道に進もうと思っていたのよ」といいながら、それ以上に心ときめかせていたことがあったようです。

八戸東高校時代、日赤の紺色の制服を着て編み上げの靴を履き、赤十字のマークが付いた帽子をかぶり、キリッとしていつも何かを考えるように、駅の方から歩いてくる「八戸赤十字病院の花田ミキさん」を教室の窓から度々見て憧れていたのです。

ある日、その憧れの「花田さん」が自分たちの高校にナイチンゲールの紙芝居を持って看護師養成所の学生募集にきて「これから看護を目指す人はきちんと学校で勉強をしなければいけないよ」と看護教育がいかに大事かを一生懸命話してくれたのです。これが決定的な「看護の道へのスタート」となって青森県立高等看護学院に入学しました。

(※当時花田ミキさんは青森県庁で青森県立高等看護学院の開学に携わっていた)

看護師として勤務

3年間の看護教育終了後、八戸赤十字病院で看護師として勤務。当時夜勤は1週間1人夜勤、懐中電灯で写る自分の姿にびっくりしながら1年間看護師として頑張ったけど、看護学生時代に授業で聞いた花田さんの「地域で生活している人達が元気で幸せにならないと、病気になった人達にいくら関わっても地域から病気はなくなる」という教えが頭から離れず、もう一回学習しなおして保健師になろうと決心した、といいます。

国保保健師と保健師養成に携わって

青森県立高等看護学院公衆衛生看護学部卒業後、国保保健師として五所川原市や青森市に勤務。保健師になってみたところ現実とは厳しく、市役所での朝一番の仕事は注射器の消毒や結核患者の注射。一方地域では、保健師という職業が住民

に理解されておらず「市役所の保健師です」というと「保険はいらない」と保険屋に間違えられる時代、月1回の保健所での月例会が心の拠り所だったとのこと。

その後、県職員となり、母校勤務で保健師を養成した時は、弘前大学とタイアップして実施した医学生と保健師学生の協力を得て実施した夏季保健活動が学生のフィールド活動として教育にとっても大きな役割を果たしてくれました、と懐かしく振り返ってくれました。

初代国保連合会の保健活動推進専門員としての活躍

県職員退職後（平成6年度）保健活動推進専門員として青森県国保連合会に勤務。国保連合会に初めて保健師が勤務したことで自分の役割を考え、取り組んだことは、保健師活動には県・保健所・保健協力員等が協力し合わないと「市町村保健師たちが活動に対する力を発揮することはできない」という、自分が国保保健師だった頃を思い出し、そのことを図形化し国保連の理解を得る努力をしたことや、また自分が直接市町村へ出かけなくても、首長や課長が国保連へおいでになった時には、自分が知っている限りの市町村保健師の頑張りと活動状況を伝え、市町村の理事者に保健師を理解してもらうことに努めたということです。

「退職保健師の会」から「青森県在宅保健師の会(以下「会」)」までの経過

会員の親睦を主な活動として保健所保健師課長の退職者で作られていた「退職保健師の会」を、市町村保健師にとっても頼れるところとして「会」に移行し、今、「会」がその役割を果たしてくれているので良かった。「会」設立には、故傳法谷巳代さん、故相馬ふさ彥さん、古川あきさん、山崎トコさん等たくさんの方々の応援があり、今は年1回総会が開催され、会報も発行されていることは退職保健師の拠り所となっている。「会」を設立して一番心配したことは、会員が増えるかということだったが、自分の後を継いでくれた専門員達がどんどん会員を増やしてくれたことや、いろんな活動を実施することで保健師の評価が良くなっていること、会報もできて楽しみにしているのよ、とにこやかな笑顔で話してくれました。

「振り返ってみて、保健師やってよかったですか？」との質問に「看護技術面では素人と同じようなものだけど、たくさんの人との関わりの中で健康を考えられたことは、自分の人生に大きな財産となって非常に良かった」としみじみと語られました。

取材を終えて

さすが、行政（市・県本庁・保健所）の保健師や看護学院で保健師教育に携わった吉田さん、話のあちこちに保健師活動の変遷、県組織による活動の変化、関連法律の改正など、私たち取材する3名（千葉、事務局澤谷専門員、梅庭専門員）にとって初めて聞く内容に驚き、また一緒に活動した頃を思い出しては「そう、そう」と懐かしく振り返る。そんな楽しさと貴重な学習の場となった取材でした。

吉田さんこれからもよろしくご指導ください。

会員の活動報告

1 地域の保健福祉活動報告

「梅内ふれあい会」（三戸町） 代表：越後 秀

三戸町は、平成26年度から地域づくりによる介護予防推進支援事業「いきいき百歳体操」を進めています。私が住んでいる梅内地区でも、平成27年度から町内会の役員を中心に「いきいきリーダー」の養成講座を受け、自主的に始めました。私もその一人です。「いきいき百歳体操」で毎週火曜日に地区の住民が集うことができました。この機会を何とか有効利用できないかと考え、月1回最終火曜日、体操終了後に認知症予防の「脳トレ」を皆でやることにし、地域の保健・福祉活動支援事業に応募しました。「百歳体操」で集まっただけでも会場はおしゃべりと笑いが絶えませんが、「体操」で筋力アップを図るので、「脳トレ」で「健やか脳」を持続し認知症予防に努めたいと思ったからです。主な内容は「コグニサイズ」の軽運動、牛乳パックを使った手工芸、干支のカレンダー作りなどです。

去年は「ニワトリの親子の木目込みカレンダー」を作りました。今は「張り子犬の押し絵カレンダー」に挑戦しています。牛乳パックは皆で集めるところから始め、最初にコグニサイズで使う踏み台を作り、その後には小物入れ、次は「牛乳パックの椅子を作りたいね」と構想は膨らみます。テーブルを囲んでの作業は話が弾み、笑いが絶えません。農村部で夏場は皆多忙で「体操」が終わると畑に行くため帰る人もあり、参加者は増えませんが、地域の誰もが集える通いの場になっています。



2 青森県職員認知症サポーター養成講座のキャラバンメイトを終えて

伊東 美知子 会員（青森市）

今回の講座では、キャラバンメイトとして本庁での開催回数中7回を担当させていただき、12月18日でその役割を終え今ちょっと肩の荷を下ろしています。でも考えてみれば、県内で50回程の講座を開催したスタッフや関係者の皆様は並大抵ではない時間と労力を費やしたことと思います。私が感じた負担感などは、ものの数ではない程のご苦労をされたことと思います。「本当にお疲れ様でした。」

今回、私がキャラバンメイトを引き受けたのは、講話内容が決まっている事や時間的に融通がきくということで、現在の私でも何とか協力できるのではないかなと思ったからでした。でも、これが誠に甘い判断だったと気づかされたのは、100名もの受講者（県職員）の方々の前に立った時でした。毎回、頭の中は真っ白、口はカラカラ。内容についても客観的に話を進めるのが難しく、山崎会長の作成したパワーポイントがなければ、話はもっと支離滅裂になったと思います（会長に感謝）。あの時の事を思い出し、遅まきながら今頃になって「私は役目を果たしたのだろうか？」と心配になっています。

ところで「受講者は認知症をどう理解したのだろうか」「サポーターのことはどんなふうに捉えただろう」と、ちょっと考えたりしています。今回の機会が「どんな状況下の人でも疎外されることなく、あたりまえに共生できる地域」を支えようという意識を持つきっかけになってくれたらありがたいなと思ったりします。

（事務局追記：実績 協力講座回数51回 協力会員延べ71人 受講者数3,496人＋12月2回分）



お知らせ



- (1) 来年度は役員改選の年です。役員をやってみたい方は、2月末日までに事務局までお知らせください。
- (2) 平成30年度の総会時の交流会・情報交換会は、平成28年度と同様に分科会形式で行いたいと考えています。皆さんから分科会のテーマを募集しますので、2月末日までに事務局までお知らせください。

3 平成29年度小規模保険者支援事業に協力して

10月11日(水)～13日(金)の2泊3日の日程で、横浜町の過去3年間特定健診未受診者、がん検診未受診者等を中心に受診勧奨訪問する国保連合会の小規模保険者支援事業に協力しました。横浜町ならではの横殴りの風雨にもめげず張り切って訪問しました。

最終日は、町国保担当課長や担当者、保健師達と本事業従事者全員で訪問結果を共有し、今後の受診率向上に向けた取り組みなどについて話し合いました。

※従事者：協会員（田中砦子、中村育子、澤谷幸子、濱中理智子、荷軽部育子）

保健所若手保健師3名、後期高齢者医療広域連合保健師1名、国保連合会保健師3名・事務職2名

※実績：対象者280名のうち、面接160名、不在120名

協力してくださった田中砦子会員（十和田市）、中村育子会員（青森市）から、声を届けていただきました。

田中 砦子 会員

横浜町は、三沢保健所勤務時代に担当した町、また、むつ保健所川内町駐在時代に毎週通った懐かしき道路です。今回は下北縦貫道路を走り現地に向かいましたが、とても快適なバイパス道路で気持ちも弾み現地到着。早速打ち合わせ開始後、地図を確認し訪問開始ですが、なんと初日から雨や風に大歓迎されながらの奮闘でした。最終日によりや快晴となる等、自然の変化に誰もグチらず、計画通り1件1軒家庭訪問する姿は、保健所若手保健師も在宅保健師も一緒に素晴らしい限り。私は長い「まさかりの道路」を行ったり来たり。小道にも入り迷いも（ナビにない道もあり）しましたが、全部訪問完了できたので感慨深いものがありました。訪問対象者は働き盛りの人達で、予想どおり半分は仕事で留守が多かったです。親との同居者は母からの聴取で、母の話からは親子関係の良さや孝行息子の多いことを知らされました。勤労者の方達の一部は職場健診を受けていることがわかりました。ただ、漁業の多い地区は多忙のために未受診になりやすく、また健診に対する理解度の低さが問題と見ました。時間をかけて様子を訊くと、精密検査になったらという恐怖心、通院が大変、血圧で治療しているから受けなくてもいい等の言い訳？、その上食事の改善が見られない。特に野菜の摂り方が少ないのが目立ちました。訪問して改めて地域性や職種により、大きな意識の差を感じました。課題は見えているので改善点の実現化で一部の期待がもてると思います。

笑い話・学びとして①大豆田をオオマメダとナビに入れても入らない⇒役場職員からマメダと読むと教えられました。無駄走りで大損訪問したことで町のことが現役時代に知りえないことを知りました。②また関係者、住民達との出会いは新鮮さと刺激さが混じって楽しい3日間を過ごせました。

このような機会を与えて下さった国保連の方々には、細部にわたり配慮くださり本当に有難うございました。町職員にも感謝です。

中村 育子 会員

青森市から国保連担当者の車に乗せて頂き、横浜町で2泊3日のお仕事でした。現職を退き久々の家庭訪問ですが、当時がよみがえり大げさに言えば「保健師の血が騒いだ」瞬間でした。

健診・検診受診勧奨の訪問でしたが、対象者が40～64歳の働き盛り世代であることから、不在者も多くいました。しかし当人と面接でき受診に結びつけたり、家族の相談を受けたりとの訪問では「昔取った杵柄とはこのことか」と保健師であることの感慨を覚えました。

それぞれ市町村の抱える健康問題はまちまちでしょうが「健診・検診を受けましょう！」は古くて新しい共通の課題だと思われました。

3日目の結果報告会では、横浜町の課題として『①近隣市町村に在住し就労している町民への広域的な健診・検診体制の検討 ②漁業者の健診・検診については、漁協関係者との連携強化を図っていく』が出されました。

雨・風に見舞われ悪天候の中の訪問でしたが、役場の皆様の暖かいおもてなしを受け、天気を物ともせず訪問できました。国保連の皆様には細やかなご配慮をいただき感謝申し上げます。



研修 報告

①平成29年度いきいき百歳体操支援サポーター養成講座 (国保連合会と青森中央短期大学の共催)

中村 美知子 会員 (五所川原市)

日 時：10月25日 (水) 場 所：青森中央短期大学 参加者：本会会員10名を含む81名

研修内容

- ・「こんなにすごい！ いきいき百歳体操の効果ーからだところのおつきあいー」
岡山県津山市健康推進課主幹 (O T) 安本勝博氏
- ・「国保連合会が進める市町村介護予防支援事業の取り組み」
国保連合会介護保険課課長補佐 菊池繁樹氏
- ・「三戸町における介護予防支援事業の取り組み」
三戸町健康推進課 保健師長 田中尚恵氏
- ・「地域づくりの視点をもった介護予防事業の展開方法と評価」
岡山県津山市健康推進課主幹 (O T) 安本勝博氏

この度「こんなにすごい！ いきいき百歳体操の効果ーからだところのおつきあいー」を受講させていただき、自分自身の介護予防をも考える機会となりました。午前是一般市民の方も参加され、講師と受講者とのやりとりで楽しく健康について考え、いきいき百歳体操の進め方を学びました。いきいき百歳体操は津山市では「こけないからだ講座」として地域に広がり、歳を重ねても目標をもってやる気を出せばよくなること、顔見知りと体操するから安心して続けられることを実際の映像を通して効果を実感することができました。自分が元気になることで周りが元気になり、地域が元気になることを教えていただき、やる気が促されました。

午後は専門研修で介護予防支援事業の取り組みとその評価についての報告があり、いきいき百歳体操の普及と共に住民全体の支援が地域づくりへとつながっていく過程を聞いて保健師の醍醐味を改めて感じ、とても充実した一日を過ごさせていただきました。また先輩保健師に出会えたことも元気の源になりました。

②特定健診・特定保健指導に関する研修会 西谷 楠緒子 会員 (青森市)

日 時：11月21日 (火) 場 所：青森国際ホテル 参加者：本会会員10名を含む104名

研修内容

- ・行政説明「青森県の特定健診・特定保健指導の状況と課題について」
講師：青森県高齢福祉保険課 成田俊秀氏
- ・講義「第3期特定健康診査等実施計画期間における特定健診・保健指導の運用の見直しについて」
講師：厚生労働省保険局医療介護連携政策課 初村 恵氏
- ・講義「平均寿命・健康寿命の延伸に向けて保健事業をどのように展開するか」
座長：青森県立保健大学 大西基喜氏
講師：浜松医科大学医学部健康社会医学講座 尾島俊之氏

この3月に退職し、今後何かしらの保健活動に関わっていききたいと思い「在宅保健師の会」に入会し「特定健診・特定保健指導に関する研修会」へ参加させて頂きました。内容は、平成30年度からの特定健診・保健指導の運用の見直しや効果的な計画の実践の知識を習得するための研修でした。

私は、保険者が情報通信技術を活用した初回面接（遠隔面接）を実施していることを、初めて知りました。地域によっては、効率的・効果的な手法なのではないかと感じました。

良く言われることですが、いかに自分の健康に関心を持たせ、改善の必要性を理解してもらうか、自ら取り組んでもらえるか。保健師職の力の見せ所、期待されているところなのでしょうか。

手法等を見直すことで、少しでも実施率向上につなげたいです よね。

最後に今回の研修参加では、研修内容は勿論ですが、これまでお世話になった先輩保健師の皆様から活動についての情報や助言を頂く機会となり、充実したものでした。有難うございました。

編集後記



- 会報24号から2ページ増えたにも関わらず、お伝えする内容が多く、皆様が見やすいように文字のポイント数を大きくできず、ごめんなさいです。
- 今年度も、保健所ブロック別研修会・交流会等で、皆様の「その人なりの元気な保健師魂」あふれる近況や活動を聞き、事務局一同「ケッパルベ」と声を掛け合っています。
- これからもよろしくお願いします。

良いお年を!!